

■リハビリテーション科

1. 2017年度の目標及び方針

1) 専門医制度への対応

リハビリテーション科は新専門医制度における基本領域に設定されている。千葉県は特にリハビリテーション科専門医が不足している地域であり、地域の専門医を育成することが急務の課題である。当院を基幹施設とする研修プログラムの構築を進め、後期研修医の募集活動を行う。

2) 地域包括ケア・IHN 推進

地域の急性期・回復期・維持期の医療およびリハビリテーションの連携を強化する。特に社会福祉法人太陽会の関連事業との連携強化を進め、質の高い地域包括ケアシステムを構築する。

3) AoLani の活用

AoLani の開始により質の高い診療データの蓄積が可能となる見込みである。このデータを活用して診療体制の見直しをする。これにより診療の質の向上、業務負担軽減、経営効率の改善を進めたい。

2. 2016年度評価

1) 専門医制度への対応

リハビリテーション科新専門医制度への応募手続きを進めた。千葉県内の大学病院や研修病院などの協力を得ることができ、リハビリテーション医学会へ申請書を提出した。当院を基幹とするプログラムは学会内の一次審査で承認された。一次審査の結果、民間病院を基幹とする研修プログラムはごくわずかであり、全国的にも注目される存在となった。2017年度には専門医機構による審査を受ける予定である。

2) 地域包括ケア推進

社会福祉法人太陽会の通所事業の企画会議に関わり、急性期病院から退院後のフォロー体制の検討を行った。次年度以降も活動を継続し、医療法人鉄蕉会と社会福祉法人太陽会の連携を強化し、質の高い地域包括ケアシステムの構築を進めたい。

3. リハビリテーション科の業務紹介やスタッフ数など

1) 業務紹介

総合病院では急性期リハ、回復期リハとして亀田リハビリテーション病院、維持期リハとして亀田クリニックで機能分担をしている。急性期リハでは発症早期から療法士が介入することで最大限の機能回復を引き出し、合併症の予防を行う。急性期を乗り切った患者さまおよび御家族の心配されることは退院後どのような生活ができるかということである。科学的根拠に基づく予後予測をし、それによる訓練プログラムを作成し、ゴール設定をする必要がある。回復期リハでは設定されたゴール目標に向けてリハビリを継続し、患者さまに安全な生活を送って頂けるよう最終調整を行う。慢性期の患者さまでは、獲得された機能を低下させないよう、適切な維持期リハが必要となる。リハビリテーションは患者さまを中心とし、多職種によるチームアプローチが必要となる。さらにリハの対象となる症例では重度の疾患を持っていることが多く、合併症のリスクも低くはない。これらを管理するのがリハビリテーション科医師の主たる業務となる。

2) スタッフ紹介

宮越浩一（リハビリテーション科部長）：1996年岡山大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会指導責任者・専門医・認定臨床医、日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医
日本リハビリテーション医学会・リハビリテーション医療における安全管理推進のためのガイドライン策定委員会委員長、日本リハビリテーション医学会・診療ガイドラインコア委員会委員、日本リハビリテーション医学会・がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会委員、日本リハビリテーション医学会社会保険等委員会委員、日本がんリハビリテーション研究会理事、千葉県NSTネットワーク世話人

桂井隆明（リハビリテーション科後期研修医）：2010年群馬大学卒業、日本内科学会認定内科医

今井由里恵（リハビリテーション科後期研修医）：2011年熊本大学卒業、日本リハビリテーション医学会認定臨床医

井合茂夫（亀田リハビリテーション病院・病院長）：1979年東京大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会認定臨床医

山本昌範（亀田リハビリテーション病院・医長）：1999年山形大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医、日本耳鼻咽喉科学会専門医

佐田七海子（亀田リハビリテーション病院・医師）：2006年大阪市立大学卒業、日本リハビリテーション医学会専門医

4. 年間活動内容と実績など

1) 亀田総合病院リハビリテーション部門の診療管理

総合病院における中央診療部門管理を行っている。具体的には他科入院中の患者さまのリハビリプログラム作成（ゴール設定やリスク管理）、経過のフォロー、嚥下障害などのコンサルテーションを行っている。療法士数、リハ処方件数などはリハビリテーション事業管理部の統計を参照。

2) 亀田クリニック外来

外来は火曜日、木曜日、土曜日に開設している。主として亀田リハビリテーション病院・総合病院退院後の脳卒中や脊髄疾患の患者さまのフォローを中心としている。その他に高次脳機能障害や嚥下障害などの障害をもつ患者さまの外来加療も行っている。他地域からのセカンドオピニオン目的の受診もある。

2) 亀田リハビリテーション病院

56床の病床を持つ回復期リハビリテーション病院が開設されている。当科医師により入院患者様の受け持ちなど診療体制の支援を行っている。

5. 教育・勉強会関係など

日本リハビリテーション医学会の専門医は現在約2000名である。全国でリハビリテーション科専門医は不足しており、専門医の育成が急務の課題である。2005年7月より亀田総合病院・亀田リハビリテーション病院・亀田クリニックの3施設合同で日本リハビリテーション医学会の研修施設として認定されている。当院がリハ学会研修施設の認定を受けた後のリハ専門医取得者は5名となった。民間病院としては比較的多い取得者数であり、千葉県有数のリハ学会研修施設となっていると考える。新制度においてもリハ専門医の育成を進めていきたい。

当科では以下の研修プログラムを作成し、後期研修医を募集している。

1) 教育方針

- ①障害を持った患者さまを総合的に診療する全人的医療を修得する。
- ②科学的根拠に基づく適切なリハビリテーション医療を患者さまに提供する。
- ③チームリーダーとしてふさわしい技能・人間性を形成する。
- ④自分の家族が障害者になっても納得のできる治療を受けることのできるリハ医療を全国に展開する。

2) 後期研修プログラム

①1年目

入院患者をスタッフ医師とともに受け持ち、基本的な診療態度を身につける。
主に回復期病棟の脳血管疾患、整形疾患の経験をする。
リハ医に必要な基本的検査を指導医のもとに施行する。
地方会での症例報告を行う。

②2年目

筋電図検査、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査などの検査を単独で施行し、評価することができる能力を身につける。
症例のバリエーションを増やし、専門医取得に必要な症例を網羅する。
リハ学会学術集会での発表を指導医の指導のもとに行う。
発表した内容を指導医の指導のもとに論文化する。
コメディカルの指導をする能力を身につける。

③3年目

次年度の専門医取得に向け、さらに経験を積む。
他科からのコンサルトに的確に応えることのできる能力を身につける。
若手レジデントの指導をする能力を身につける。
単独で学会発表、論文執筆をする能力を身につける。

6. 学術関係

書籍

宮越浩一編著：リハビリテーション・リスク管理ハンドブック第3版. メジカルビュー、2017

総説

宮越浩一：がんのリハビリテーションに必要な知識　がんにおける評価. *Journal of Clinical Rehabilitation*25; 781-786, 2016

宮越浩一：感染管理におけるリハビリテーション部門責任者の役割. *MEDICAL REHABILITATION*199; 10-16, 2016

宮越浩一、亀田信介：超高齢社会に向けての地域包括ケアシステム構築. *Journal of Clinical Rehabilitation* 25; 1206-1212, 2016

宮越浩一：リハビリテーションにおける医療安全. *総合リハビリテーション* 45; 47-52, 2016

宮越浩一：がんリハビリテーション. *Gノート* 4; 465-472, 2017

桂井隆明、宮越浩一：リンパ浮腫におけるリハビリテーション. *Journal of Clinical Rehabilitation*26, 138-142, 2017

学会発表

桂井隆明：当院の入院患者における急性期病院への転院について．第53回日本リハビリテーション医学会学術集会、2016年6月、京都市

今井由里恵：回復期リハビリテーション病院の脳卒中患者における感染症の発生の予測因子の検討．第53回日本リハビリテーション医学会学術集会、2016年6月、京都市

宮越浩一：入院時転倒リスク評価と在院日数の関係．日本医療マネジメント学会、2016年4月22日、福岡市

宮越浩一：地域におけるがんリハビリテーション（シンポジウム）．第11回リハ医学会専門医会学術集会、2016年10月、金沢市

宮越浩一：Mini Nutritional Assessment short-form (MNA-sf) の在院日数予測ツールとしての有用性．第32回日本静脈経腸栄養学会、2017年2月、岡山市

Koichi Miyakoshi: Impact of Nutritional Status on Length of Hospital Stay. 33rd World Congress of Internal Medicine, Aug 2016, Bali

院外講演

宮越浩一：急性期リハビリテーションにおける質と安全の管理．第53回日本リハビリテーション医学会学術集会教育講演、2016年6月、京都市

宮越浩一：リハビリテーションにおけるリスク管理．手稲溪仁会病院講演会、2016年9月、札幌市

宮越浩一：がんのリハビリテーション．産業医科大学大学院講義、2016年10月、小倉市

宮越浩一：効果的なリハビリテーションのためのリスクマネジメント．第45回四国理学療法士学会、2016年11月、高松市

受賞

Koichi Miyakoshi: Best Abstract Award; 33rd World Congress of Internal Medicine: Impact of Nutritional Status on Length of Hospital Stay.

文責：宮越浩一